

Evening Report

株式会社フィスコ
2012年3月30日(金)
18:09

フ
イ
ス
コ
イ
ブ
ニ
ン
グ

株式市場 年度末は10000円を上回っての着地に

日経平均は小幅に下落。31.23円安の10083.56円(出来高概算18億8000万株)で取引を終えた。欧州不安が再び高まってきているほか、NY原油先物相場の大幅下落といった商品相場の下げが嫌気された。為替相場の円強含みも重荷となった。ただし、年度末は10000円を上回っての着地となり、月足は3ヶ月連続の陽線に。期末要因から積極的な商いは手控えられ、膠着感の強い相場展開だったが、主力株が総じて軟調ななかでは、底堅さが意識される。

来週は名実ともに新年度相場入りとなる。欧州不安が再び高まってきているほか、米雇用統計などを控えていること

もあり、膠着感が強まりそうである。ただし、日経平均は10000円を固めつつ、新年度入りへの期待から先高観の強い相場展開が期待される。週後半は円高の影響もあって主力株には利益確定の売りが膨らんだが、一方で小型株は堅調。また、輸出関連が弱い一方で、フリテイ<9983>は高値更新で時価総額は2兆円を突破するなど、循環がみられている。調整を交えつつも海外勢による日本株への見直しは継続するであろう。

(村瀬智一)

為替市場 ドル・円は弱含み、82円50銭から81円83銭まで軟調推移

ドル・円は弱含み、82円50銭から81円83銭まで軟調推移。ドル・円は、年度末のリバトリ(外貨建て資産売却・円買い)で弱含みに推移したものの、81円台のソブリンネームのドル買いオーダーで下げ渋る展開となった。

ユーロ・ドルは強含み、1.3296ドルから1.3377ドルまで堅調

推移。年度末のドル売り、ファイアーウォール(防火壁)の増額(8000億ユーロ-9400億ユーロ)の可能性を受けて堅調に推移した。ユーロ・円は強含み、109円06銭から109円88銭まで堅調推移。

参考銘柄 PS三菱(東証1部 1871)

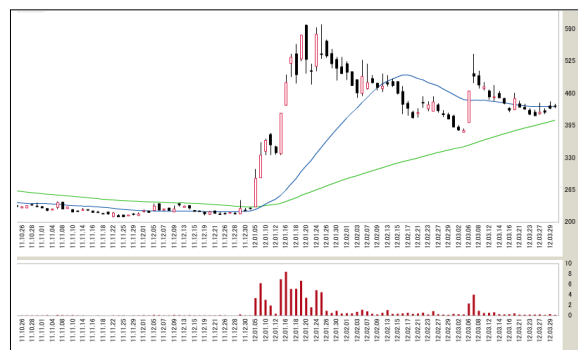
新年度入りで改めて復興関連へ

業種	建設
投資評価	買い
終値	435 円
目標株価	500 円
売買単位	100 株

新年度相場入りとなり、改めて復興関連に関心が向かいやすいと考えられる。株価は弱いトレンドとなり、直近では25日線が上値抵抗に。一方、一目均衡表では雲下限がサポートとして意識されるほか、運行スパンは来週にも上方シグナルを発生させてくる可能性がある。信用買い残高は高水準であり、需給面での不安もあるが、新年度によって短期筋の動きも活発化する可能性はあろう。

(村瀬 智一)

単位・円



3月前半の急騰の反動安。次第に煮詰まり感が台頭してきており、25日線突破を見極め。

(百万円・円・%)

連結	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益
07.03	145,674	-5.44	-2,959	-3,060	-	-9,686	-298.93
08.03	130,581	-10.36	-2,536	-2,966	-	-3,829	-118.17
09.03	130,037	-0.42	1,946	977	-	860	26.54
10.03	118,684	-8.73	3,286	3,140	221.39	1,487	45.91
11.03	86,636	-27.00	1,427	947	-69.84	535	16.53
12.03予	97,000	11.96	1,100	800	-15.52	600	18.52

Evening Report

株式会社フィスコ
2012年3月30日(金)
18:09

フィスコ
イブニング

参考銘柄 合同製鐵(東証1部 5410)

電炉各社には復興需要や再編期待など高まる方向へ

単位・円

業種	鉄鋼
投資評価	買い
終値	212 円
目標株価	230 円
売買単位	1,000 株

建設用鋼材に上昇の兆しといった報道が伝わった。電炉各社には、震災復興需要の顕在化が想定される状況になってきたとみられる。また、新日鉄と住金の合併に向けた動きが本格化していくに伴い、鉄鋼業界には再編期待なども高まりやすくなってこよう。株価の値頃感も強く、関心の高まっていく展開を想定したい。

(佐藤 勝己)



一目均衡表では、転換線や基準線が上値を抑える一方、切り上がる雲の上限が支持線になっていくとみられる。中期的観点でも、週足では13週移動平均線が当面の下支えにつながろう。

(百万円・円・%)

連結	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益
07.03	126,293	10.50	12,823	13,386	-31.57	9,979	63.98
08.03	161,471	27.85	5,703	5,809	-56.60	3,537	21.16
09.03	192,630	19.30	11,780	12,079	107.94	5,423	31.65
10.03	95,844	-50.24	-1,988	-1,710	-	-2,826	-16.71
11.03	129,898	35.53	791	769	-	-1,906	-11.54
12.03予	133,000	2.39	2,500	2,500	325.10	2,000	12.19

参考銘柄 ビットアイル(JASDAQ 3811)

三角保ち合いを上放れリバウンド本格化へ

単位・円

業種	情報・通信
投資評価	買い
終値	880 円
目標株価	950 円
売買単位	100 株

直近では三角保ち合いを形成し煮詰まり感が強まっていたが、上方方向にブレイクしたことでリバウンドの本格化を予想する。21日には、今期営業利益予想を26億円から28億円へと上方修正。3月上旬の中間決算の発表以降は業績伸び悩み懸念が強まっていたが、クラウドサービスの好調などを背景とした今期の順調な業績拡大が確認されたことで、見直しの動きが強まりやすいただろう。

(小川 佳紀)



25日線水準での保ち合いを上放れたことで先高観が強まりやすく、2月戻り高値である950円水準を意識したリバウンドへ。

(百万円・円・%)

連結	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益
07.07	5,206	105.77	937	763	3,217.39	425	2,802.28
08.07	6,835	31.29	1,328	1,125	47.44	559	3,382.42
09.07	7,866	15.08	880	637	-43.38	336	2,038.91
10.07	9,731	23.71	1,376	1,070	67.97	628	3,824.24
11.07	11,949	22.79	2,032	1,732	61.87	903	5,505.39
12.07予	15,000	25.53	2,800	2,500	44.34	1,300	39.34

Evening Report

株式会社フィスコ
2012年3月30日(金)
18:09

フ
イ
ス
コ
イ
ブ
ニ
ン
グ

本日のスナップショット

<6954> ファナック 14680 -430

売り先行。UBSでは投資判断を「ニュートラル」から「セル」に格下げ、目標株価は12000円を継続している。世界製造業PMIは春先から再調整のリスクがあり、株価の割高感に否めないとの見解のようだ。また、寄り前に発表された鉱工業生産指数の下振れもマイナス材料のほか、中国関連として週末に中国PMIの発表を控えていることも買い手控え材料に。

<5233> 太平洋セメ 184 +3

買い先行。SMBC日興では投資判断を新規「1」、目標株価を240円としている。復興需要を含む国内セメント需要の回復に加えて、国内販売価格上昇に向けた取組なども予想されるとしているようだ。ちなみに、SMBC日興では、住友大阪セメも新規に買い推奨としており、新年度相場に向け復興関連銘柄への期待感を高めさせる流れにもつながる格好に。

<5563> 日本電工 405 +6

強い動きが目立つ。CSでは投資判断を「ニュートラル」から「アウトパフォーム」に格上げ、目標株価も380円から520円に引き上げている。足元のマンガン合金鉄市況上昇や対ユーロでの円安を考慮、4-6月期以降の業績改善幅は従来想定よりも大きくなると予想している。高炭酸フェロマンガ市況は1月中旬の1000ドル近辺から、足元では1300ドルまで戻っているようだ。

<4927> ポーラオルビス 2470 +157

買い優勢。三菱UFJでは投資判断を新規に「アウトパフォーム」、目標株価を2650円としている。国内事業の成長力、海外業容拡大のポテンシャル、良好な財務体質などを評価しているようだ。海外事業に関しては、M&A展開の実施をテコとしてアジア事業の加速化が見込まれると指摘へ。

<9716> 乃村工芸社 298 +25

急伸。コスモが投資判断を新規に「B+」としていることが手掛かり材料にされる。目標株価は350円と設定しているようだ。東京スカイツリー関連などで受注は回復、一時的費用の一巡などで、今2月期に続き、来期も大幅増益を予想しているもよう。今期の32%営業増益予想に続いて、14.2期は営業利益は35億円、今期予想比2.2倍と大幅増益を予想。

<6502> 東芝 364 -7

さえない。エルピーダの支援企業を決定する入札に参加する方針と伝わっている。米マイクロンとの争奪戦になる公算と。エルピーダ破綻当初にも支援観測などが高まったが、当時も売り材料視された経緯がある。DRAM+NANDによるスマホ向け展開力の強化などは期待される一方、財務負担増や事業の変動リスクの高まりなどに対する警戒感がより優勢なようだ。

<5017> ACHD 490 -8

売り先行。アラビア石油の開発プロジェクト進捗状況について前日に発表、4-6月期の生産開始を目指していたイメ油田に関して、生産設備の工事遅延のため、12月までの生産開始は困難としている。計画の遅れは想定されていたといえ、半年以上の遅延は予想以上との見方から、ネガティブに捉えられる状況にも。

<5410> 合同製鐵 212 +2

しっかり。建設用鋼材に上昇機運が高まってきたと報じられており、棒鋼の取引価格も約1年ぶりに反発と伝わっている。復興需要の本格化の兆しといった思惑も高まる格好で、電炉セクターの一角に資金が向かう状況にも。また、前日には住友鋼管が急伸するなど、鉄鋼業界大再編の動きなどにも、改めて期待感が高まる展開のもよう。

<7952> 河合楽器 189 +15

急伸。前日には、野村の楽器業界のレポートが観測されている。日本メーカーが競争力を発揮する数少ない分野であるとの評価。同社に関しては、レーティング未付与ながら、中国市場の成長の恩恵を受取る銘柄であると指摘している。一昨日の一部報道では、中国市場でピアノの購入ブームが起きているとも伝わり、期待材料視する流れが強まっている。

<4344> ソースネクスト 18000 +2490

後場は急伸。前引け後に業績予想の上方修正を発表、買い材料とされている。通期営業利益は2.1億円の従来予想から2.6億円に増額修正、主力製品の販売好調が続いているほか、スマホ向けアプリなど新分野も順調に売上を拡大させているようだ。上半期の上振れ分が増額されている格好でインパクトは限定的と見られるが、手掛かり材料に欠ける中、短期資金の関心が集中する流れにも。

Evening Report

株式会社フィスコ
2012年3月30日(金)
18:09

参考銘柄 Review

本レポートに取り上げた参考銘柄の動向を掲載します

掲載日	コード	銘柄	コメント
3月29日	4819	Dガレージ	強弱感対立も、5日線と25日線のゴールデンクロス示現が迫る。
3月29日	3639	ボルテージ	4日続伸と緩やかなりバウンド継続。25日線がサポートに変わっており、撤退ポイントは25日線割れとする。
3月29日	1896	大林道路	復興関連に関心向かいつつあり継続注目。
3月28日	6723	ルネサス	買い先行後は利食い一服に。短期ゴールデンクロス示現。5日線割れの撤退ポイントは継続。
3月27日	6890	フェローテック	下値サポートとして意識されている850円水準では下げ渋る。
3月27日	6440	JUKI	反発で1ヶ月ぶりの水準。利益確定を優先し、175円を下回ったら撤退。
3月26日	5987	オーネックス	もみあい推移が継続するがリバウンド基調は継続。
3月26日	5566	中央電工	直近ボトム水準での攻防、一目均衡表では雲上限のサポートに期待。
3月23日	5302	日カーボン	230円割れの撤退ポイントは継続。
3月22日	4751	サイバーエージ	上値重い、下ヒゲ形成で底堅さも意識される。
3月19日	5741	古河スカイ	25日線の攻防。撤退ポイントの260円割れは継続。
3月9日	8168	ケーヨー	ようやく保ち合いレンジを上放れる。利益確定を優先し、撤退ポイントは510円に引き上げる。

Evening Report

重要事項(ディスクレマー)

- 株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪証券取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供していません。
- “JASDAQ INDEX”の指数値および商標は、株式会社大阪証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。
- 掲載される情報はフィスコが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容および情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。
- 本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告無く変更する場合があります。
- 本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。
- フィスコが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。
- 本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。
- 本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大することを保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。
- フィスコおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。
- 投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ